



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月8日

上場会社名 株式会社アーレスティ 上場取引所 東
 コード番号 5852 URL http://www.ahresty.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 新
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 石丸 博 TEL 03-5332-6001
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	27,593	6.4	232	△52.3	222	△26.0	188	278.7
25年3月期第1四半期	25,937	19.7	487	-	300	-	49	-

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 2,619百万円 (836.1%) 25年3月期第1四半期 279百万円 (127.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	8.75	8.71
25年3月期第1四半期	2.31	2.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	118,472	41,955	35.4
25年3月期	110,752	39,335	35.5

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 41,890百万円 25年3月期 39,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	-	3.00	-	0.00	3.00
26年3月期	-	-	-	-	-
26年3月期(予想)	-	8.00	-	6.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

(注) 平成26年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当 3円00銭 記念配当 5円00銭

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	57,950	11.2	850	129.3	600	-	2,250	-	104.30
通期	122,300	15.5	3,050	205.8	2,400	237.3	3,950	-	183.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。

詳細は、添付資料P. 3 「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	21,778,220株	25年3月期	21,778,220株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	202,450株	25年3月期	213,847株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	21,564,304株	25年3月期1Q	21,564,444株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策、金融政策の効果などを背景に、輸出、生産は緩やかながら持ち直し、企業業績は改善の動きが見られました。海外においては、弱い回復ながら底堅さは見られ、アメリカでは景気は緩やかな回復傾向にあり、アジアではインドの景気が緩やかに減速しているものの、中国は景気の拡大テンポがやや持ち直してきています。

このような環境の中で、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高27,593百万円（前年同四半期比6.4%増）、営業利益232百万円（前年同四半期比52.3%減）、経常利益222百万円（前年同四半期比26.0%減）、四半期純利益188百万円（前年同四半期比278.7%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① ダイカスト事業 日本

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、国内向け軽自動車の販売や北米向け輸出が好調だったものの、エコカー補助金終了による反動減や、中国向けの自動車生産が減少している影響等により、国内生産は減少傾向にありました。当社においてもこれらの影響を受け、売上高は14,238百万円（前年同四半期比8.5%減）となりました。収益面においては、減価償却方法の変更及び原価低減活動の効果等によりセグメント利益は619百万円（前年同四半期比505.0%増）となりました。

② ダイカスト事業 北米

北米では、アメリカでの好調な自動車販売の影響を受けて受注が増加したことに加え、円安基調にある為替の影響により、売上高は7,174百万円（前年同四半期比34.4%増）となりました。収益面においては、メキシコでの製品あたりの付加価値減少による影響及び設備投資による固定費の増加影響等により、セグメント利益は73百万円（前年同四半期比80.8%減）となりました。

③ ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおいて、日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻っていない中で、中国国産車向けの受注は増加しました。また、インドにおいても新規製品の量産本格化により受注が増加しました。これらに加え、円安基調にある為替の影響により、アジアでの売上高は4,655百万円（前年同四半期比18.8%増）となりました。収益面においては、インド及び中国での先行投資による固定費の増加影響等により、セグメント損失は355百万円（前年同四半期はセグメント損失2百万円）となりました。

④ アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、二次合金地金の出荷量が前年同四半期比で10.6%増となったことに加え、為替による影響で販売単価が上がったことにより、売上高は1,109百万円（前年同四半期比19.8%増）となりました。収益面においては使用原材料の高騰の影響等により、セグメント利益は12百万円（前年同四半期比40.6%減）となりました。

⑤ 完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加したことにより、売上高は415百万円（前年同四半期比112.5%増）となりました。収益面においては、売上高が増加したものの価格競争の激化等の影響により、セグメント損失は13百万円（前年同四半期はセグメント損失34百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ7,719百万円増加して118,472百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の増加4,616百万円、売上債権の増加1,393百万円であります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ5,100百万円増加して76,517百万円となりました。主な要因は、借入金の増加2,989百万円、仕入債務の増加656百万円、賞与引当金の増加650百万円であります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2,619百万円増加して41,955百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定の増加2,036百万円であります。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末35.5%から35.4%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年5月13日に公表した業績予想を修正いたしました。詳細については、平成25年8月8日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(減価償却方法及び耐用年数の変更)

当社グループでは、当社及び国内子会社の有形固定資産は主として定率法、海外子会社では主として定額法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、当社及び国内子会社における、工具器具備品に含まれる金型以外の有形固定資産は定額法、当社及び国内子会社並びに海外子会社における工具器具備品に含まれる金型については主として生産高比例法へそれぞれ変更いたしました。

平成25年度を起点とする当社グループの中期経営計画において「収益管理の強化」を重点施策として掲げ、その中でグローバルでの投資の選択と集中の必要性を協議し、海外拠点への投資を継続する一方で、国内では新規投資を抑制し、生産体制改善や既存設備の維持更新などを目的とした投資が多く占めるようになっていくことから、これらの状況の変化を契機として、当社グループの主要な有形固定資産の使用実態の調査を実施いたしました。

その結果、国内においては、有形固定資産が稼働開始直後から集中的に使用される傾向から、耐用年数期間にわたり安定的に使用される見通しが明確になっております。そのため、当第1四半期連結会計期間以降は、その経済的便益が安定的に消費されることになると考えられることから、耐用年数にわたり一定額の費用が計上される定額法へ変更することにいたしました。

また、併せて工具器具備品に含まれる金型については、国内外における生産体制や生産ロット等の違いによる費消の実態をより適切に反映するため、金型の費消度合いの指標である命数管理を基礎とし、主として生産高比例法へ変更することにいたしました。

加えて、一部の有形固定資産の耐用年数については、当社グループのグローバル展開の進展を踏まえ、同種同一条件下で使用される主要な有形固定資産の使用実態の調査に基づき、その結果に応じたものに変更しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第1四半期連結累計期間の営業利益は269百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ268百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,087	5,819
受取手形及び売掛金	18,620	20,014
商品及び製品	2,777	2,637
仕掛品	3,999	4,388
原材料及び貯蔵品	2,641	2,961
その他	3,028	3,206
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	37,153	39,026
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,749	12,047
機械装置及び運搬具(純額)	30,171	32,624
土地	5,743	5,743
建設仮勘定	12,289	13,845
その他(純額)	5,197	5,505
有形固定資産合計	65,150	69,766
無形固定資産		
投資その他の資産	984	1,215
投資有価証券	5,956	6,536
その他	1,509	1,927
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	7,464	8,463
固定資産合計	73,599	79,445
資産合計	110,752	118,472
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,418	12,908
電子記録債務	3,583	3,749
短期借入金	6,315	8,601
1年内返済予定の長期借入金	9,406	9,751
未払法人税等	270	277
賞与引当金	930	1,581
事業構造改善引当金	196	118
製品保証引当金	189	174
その他	6,831	7,469
流動負債合計	40,143	44,632
固定負債		
長期借入金	22,941	23,300
退職給付引当金	3,919	3,963
その他	4,413	4,621
固定負債合計	31,273	31,885
負債合計	71,416	76,517

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,117	5,117
資本剰余金	8,359	8,359
利益剰余金	25,944	26,124
自己株式	△320	△303
株主資本合計	39,100	39,297
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,365	2,759
為替換算調整勘定	△2,203	△166
その他の包括利益累計額合計	161	2,592
新株予約権	73	65
純資産合計	39,335	41,955
負債純資産合計	110,752	118,472

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	25,937	27,593
売上原価	23,080	25,130
売上総利益	2,856	2,462
販売費及び一般管理費	2,369	2,230
営業利益	487	232
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	37	44
為替差益	—	144
スクラップ売却益	19	21
その他	12	22
営業外収益合計	75	238
営業外費用		
支払利息	180	244
為替差損	55	—
その他	26	3
営業外費用合計	261	248
経常利益	300	222
特別利益		
固定資産売却益	1	2
補助金収入	168	14
特別利益合計	170	17
特別損失		
固定資産除売却損	34	13
投資有価証券売却損	—	9
特別損失合計	34	23
税金等調整前四半期純利益	436	215
法人税、住民税及び事業税	369	369
法人税等調整額	17	△342
法人税等合計	386	27
少数株主損益調整前四半期純利益	49	188
四半期純利益	49	188

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	49	188
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△372	393
為替換算調整勘定	602	2,036
その他の包括利益合計	229	2,430
四半期包括利益	279	2,619
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	279	2,619
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	ダイカスト事業			アルミニウム事業	完成品事業	
	日本	北米	アジア			
売上高						
外部顧客への売上高	15,560	5,336	3,918	925	195	25,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	668	2	155	697	—	1,522
計	16,228	5,338	4,073	1,623	195	27,459
セグメント利益又は損失(△)	102	382	△2	20	△34	468

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	468
セグメント間取引消去	18
四半期連結損益計算書の営業利益	487

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	ダイカスト事業			アルミニウム事業	完成品事業	
	日本	北米	アジア			
売上高						
外部顧客への売上高	14,238	7,174	4,655	1,109	415	27,593
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,040	8	236	632	—	1,917
計	15,278	7,183	4,892	1,741	415	29,511
セグメント利益又は損失(△)	619	73	△355	12	△13	336

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	336
セグメント間取引消去	△104
四半期連結損益計算書の営業利益	232

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(減価償却方法及び耐用年数の変更)

会計方針の変更に記載の通り、当社グループの一部の有形固定資産について減価償却方法及び耐用年数を変更しております。

この変更によるセグメント利益及び損失に与える影響は次の通りであります。

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	ダイカスト事業			アルミニウム事業	完成品事業	
	日本	北米	アジア			
セグメント利益及び損失 (△)	290	24	△48	3	0	269